

2025年7月6日 主日礼拝 聖霊降臨節 第4主日 聖餐礼拝 週報番号3471号

説教題：「**キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さ**」

聖書箇所：エフェソの信徒への手紙3章14-21節（355頁）

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93-1-52 交読詩編：詩編119編1-8節（131頁）

讚美歌：83/194（神さまはそのひとり子を）/430（とびらの外に）/81（主の食卓を囲み）/27

「今週の聖句」〔…キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり…〕（エペソ書3：18-19）

「牧師室の窓」 「その昔 輝く星の 天の川 相聞(そうもん)の歌 今に伝わる」

「半年は 早や過ぎ行きて 文月に 決意新たに 日記に記す」

(1)皆様おはようございます。本日は皆様と共にエフェソの信徒への手紙第3章の後半を読んで参ります。エフェソがどのような町であるのかを再確認しておきます。エフェソの町は、現在のトルコ共和国の西側の港町です。10年前の2015年に世界文化遺産に指定されています。エジプトのクレオパトラ女王の妹さんや聖母マリア様もこの地に住んでおられたとも伝えられています。2千年前には地中海を取り巻くローマ帝国の中では大きな都市であり、物資運搬の中継地点でもありました。女神アルテミスが豊穡の神として信仰され、その大きな神殿は世界の七不思議の一つとして数えられていました。パウロはこの町に2年数ヵ月滞在し、イエス・キリストが救い主であると宣べ伝えました。パウロはテント造りの技術者であり、アキラ・プリスキラ夫妻や弟子たちと共に、チームを組んで伝道を行ないました。始めは主の言葉を頑なに拒んでいた人達は次第、次第に信じる様になりました。チーム・パウロは挫(くじ)けずに努力を続けたのです。

…私は若い時代に営業推進で新しい取引先開拓の仕事をしました。実績が上がらないことの辛さを身にしみて感じました。新規取引獲得の実績が3ヵ月もゼロですと、体重が減り、精神的によくありません。幸いにして、6ヵ月目に、アメリカの半導体製造会社との取引が取れて、〇円を融資することが出来ました。毎日のようにアメリカ人の社長に面会を申し出て断られて、道が開けてきました。半導体についても調査研究をして知識を深めました。後に、人間の血管に入れる細い管・カテーテルの会社との取引交渉を始める時も容易ではありませんでした。

…今の時代の若者たちにも、仕事で悩む時には、新約聖書の使徒言行録の中でパウロがどの様にして困難を乗り越えていったのかを知ることは、励ましになると思います。場合によっては、心が震えるほどの励ましになることでしょう。後程、お話を進めますが、司式者が朗読して頂きました本日の聖書箇所の中の18節19節の御言葉、〔(3:18)…キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、(3:19)人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり…〕をどの様に理解するか、体験するかによっては深い感動を受けることになるでしょう。

(2)では、今日の聖書箇所の始まりである14節を見てみましょう。〔(3:14)こういうわけで、わたしは御父の前にひざまずいて祈ります。〕この「御父の前にひざまずいて祈ります」と書かれています。ギリシア語の原文には「祈る」という言葉はありません。その代わりに「膝をかがめて、両膝を折り」と書かれています。「祈る」という言葉がなくても、パウロの祈りの状況が、気迫がはっきりと私たちに伝わってくると思います。如何でしょうか。

14節の始めの言葉「こういうわけで」と言うのは3章の前半の箇所を受けています。それは「神の秘められた計画」であり、「落胆するな、苦難は栄光である」です。「秘められた計画」はギリシア語ではミステリオンです。英語ではミステリーと訳されています。口語訳聖書では「奥義」、聖書協会共同訳では「秘義」と翻訳されています。だからこそ、「落胆するな、苦難は栄光」なのです。ここにはパウロならではの逆転の発想が表れています。聖書そのものに逆転の発想があるのです。創世記も出エジプト記、イザヤ書にもそのことが書かれており、パウロはそのことを理解したので

す。抑々(そもそも)、パウロの「回心」そのものが主なる神による「逆転劇」と言えるでしょう。クリスチャンを迫害していた者が突然にクリスチャンになってしまったのですから。加えて、伝道することに悩んでいたパウロがアジアの西の果てのエーゲ海を見おろすトロアス(ギリシア神話のトロイの木馬の古代トロイからは10数km離れています)での夢の中で決意したことによって、キリスト教はヨーロッパへと伝えられていったのです。逆境が逆転劇を実現させたのです。

(3) その逆転劇が起きる、起こさせるスイッチは何かと言うことが今日の聖書箇所(3:16)に書かれています。見てみましょう。〔(3:16)どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めて、(3:17)信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。〕

この16節17節を一言で言い表すとどうなりますでしょうか。それは「人間は、人生を変えることが出来る」と言っているのです。ポップ・ステップ・ジャンプの3段階が示されています。ポップは、主なる神が「あなたがたの内なる人を強め」、ステップは、「あなたがたの心の内にキリストを住ませ」、ジャンプは、その結果として、「あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださる」のです。

でも、このことは特別のことでも、特別の人に対してなされるものではありません。何故ならば、15節には何と書かれているでしょうか。〔(3:15)御父から、天と地にあるすべての家族がその名を与えられています。〕 そうなのです、「すべての家族」がその対象になっているのです。このことは、言葉を変えて3章6節に書かれていました。思い出してください。「(3:6)…異邦人が福音によって…約束されたものをわたしたちと一緒に受け継ぐ…同じ約束にあずかるものとなる…」と書かれているのです。

ご記憶でしょうか、ガラテヤの信徒への手紙3章26節28節でパウロの言葉として明確に記録されています。著名な聖句です。〔(ガラテヤ書3:26)あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。…(3:28)そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。〕 ここで注意すべきことがあります。このパウロとは2千年前の人なのです。当時の大多数の人にとっては理解不能であったでしょう。

現代の私たちの回りを見ても、世界での戦争状況を見ても、パウロの考え方が如何に並外れているかが理解できます。聖書を読むうえで一番大切なことは、感動することにあります。

…以前お話したことがあります。私が学生時代に学んだ科目の1つに「農業経済学」がありました。その先生が授業の一番初めに、冗談を言われました。農業経済学を省略して「農経」と言いますが、「脳が軽い」のではなく「脳を軽くして」しっかりと学んでください、と言われました。今でも思い出して、頭を軽くする、心を軽くする様にしています。昨今では、お米の急激な値上がりで世の中が右往左往していますが、農業政策は国の基本であり、国民の死活問題です。農林水産大臣には身命を賭してお働きいただきたいと応援しています。

(4) 17節の「愛に根ざし、愛にしっかりと立つ」と言う言葉を受けて、18節19節が書かれています。

〔(3:18)また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、(3:19)人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。〕 この18節の「キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さ」とは何でありましょうか。古来、様々な解釈がなされています。例えば、天の国の大きさ、神の知恵、宇宙の広がりなどなどです。でも私の理解は次のとおりです。この表現はパウロが何かを例えているのではなく、そうではなくて、考え方の方法論、測り方、計算方法を示しているのではないかと私は思います。私たちは「キ

リストの愛」の大きさを測る、測定することが出来ません。併し、「広さ」と「長さ」を理解することが出来ます。何故ならば、縦・横の長さ・広さは2次元の測定であるからです。次に「高さ」と「深さ」を理解することも出来ます。何故ならば、高さ・深さは3次元であるからです。加えて、高さ・深さは立体的に測定する場合には、上に見上げて高さを測る、下を覗いて深さを確認します。測ることが出来ない「キリストの愛」の大きさを何としてでも、測定して皆に伝えたいと言うパウロの熱意の表れと私には感じられます。

…私は学生時代に線形数学(線・形)を授業で学びました。英語では、オペレーションズ・リサーチと言います。第2次世界大戦中に発達した数学です。太平洋での各地に広がった戦場に物資弾薬を届けるにはどうしたらよいだろうか。日本軍の特別攻撃戦闘機(特攻機)による被害を最小限にするためには軍艦はどの様に動けばよいのだろうか。私はこの数学を学んでいた時に、日本の陸軍も海軍も軍事展開や食料補給にもこの数学に着目することはなかったことを知りました。私の叔父は、海軍の航空母艦に乗り、ガダルカナル島の東、約千kmの南太平洋海戦で戦死しました。書道と数学が好きであったようですから、叔父が「キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さ」をどの様に解釈するのかしらと、時々想像しています。

(5)先々週の礼拝は、板橋大山教会との講壇交換で私は先方に行っておりました。司式者が盲目の方で、ご自分で作られた点字文字を読みつつお役目を果たされたこと、礼拝前に私とのリハーサルを行ないましたことは、先週の礼拝後に皆様にお話ししました。その時の説教の中で、私は、教会には「見えない資産」「無形資産」があることを少し話しました。簿記を習うことをお勧めしました。今や高校生のみならず、中学生も簿記を学んでいます。勤定科目を学べば世の中の仕組みが分かり、資格を持てば収入を得ることが出来、謝儀が少ない牧師は体力に自信がなくても収入を得られ、職場での世間話で会話術を学ぶことが出来そうですと申し上げました。礼拝後の軽食座談会では、簿記を学びたいとの決意表明があり、是非ともチャレンジして下さいと申し上げました。

私たちは「キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さ」を信じるのが大切です。是非ともチャレンジしてくださいように。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちは、聖霊降臨節の日々を生活しており、1年間の半分を終えて、後半の半年を歩んでいます。神の恵みに感謝します。これからも信仰へと導いて下さいます様にお願いします。神が創造されましたこの地球上に生きる一人一人に平安・平和と希望が与えられますように。食べ物が乏しい人々に、災害や戦争の只中にある一人一人に慰めがありますように、お守りください。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン